

# 道博協ニュース

帯広大会特集

第27号

発行所 北海道博物館協会  
事務局 札幌市白石区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-(898)-0456

## 第二十八回北海道博物館大会

せまる

第二十八回北海道博物館大会及び平成元年度の北海道博物館協会総会の開催要領について、前回のニュースにてその骨子をお伝えしました。その後、シンポジウムの司会、

司会 釧路市立博物館館長 澤 四郎  
助言者 北海道教育研究所 教育計画研究室長 藤井 武、北海道博物館協会理事 米村 哲英

助言者、提言者及び施設・史跡見学会コース等が最終的に決定されましたので改めてお知らせいたします。

提言者 (1)「動物園と生涯学習」 おびひろ動物園園長 中村 悟、(2)「地方博物館と生涯学習」 斜里町知床博物館館長 金盛典夫、(3)「女子短大生のみた博物館」 静修短期大学教授 北川芳男

①受付(9時～9時30分)  
②開会式(9時30分～10時10分)  
③特別報告(10時10分～11時)、「日本における博物館の現状と課題」 日本博物館協会専務理事 毛利正夫

(1)「動物園と生涯学習」 おびひろ動物園園長 中村 悟、(2)「地方博物館と生涯学習」 斜里町知床博物館館長 金盛典夫、(3)「女子短大生のみた博物館」 静修短期大学教授 北川芳男

④特別講演(11時～12時30分)、「十勝岳の火山災害」  
⑤記念撮影・昼食(12時30分～13時30分)  
⑥シンポジウム(13時30分～16時30分)、「生涯学習における博物館の役割」

⑦学芸職員部会(16時30分～17時30分)  
⑧懇親会(17時30分～19時)

①総会(9時～10時10分)  
②閉会式(10時10分～10時20分)・会場移動

③施設・史跡見学(10時30分～15時) 帯広百年記念館、帯広児童会館、おびひろ動物園、野草園、緑ヶ丘公園、幕別ふるさと館他

③特別報告(10時10分～11時)、「日本における博物館の現状と課題」 日本博物館協会専務理事 毛利正夫

④特別講演(11時～12時30分)、「十勝岳の火山災害」

⑤記念撮影・昼食(12時30分～13時30分)  
⑥シンポジウム(13時30分～16時30分)、「生涯学習における博物館の役割」

⑦学芸職員部会(16時30分～17時30分)  
⑧懇親会(17時30分～19時)

### 帯広大会 施設・史跡

見学地紹介

第28回帯広大会は、帯広ス

テーションホテルを会場に開催されますが、二日目の施設・史跡見学は、上記のように緑ヶ丘公園を中心に研修することになりましたので、その概要をご紹介します。

●帯広市  
明治十六年、静岡県伊豆から依田勉三が晩成社一行を引きつれて入植したのを帯広市の開基元年としています。以後、明治三十五年には十勝で唯一の町となり、昭和八年には市制が施行されました。現在の人口は十六万六千人余、十勝地域の中枢、北海道の内陸拠点として躍進を続けています。

●緑ヶ丘公園  
市街地南部にある緑ヶ丘公園は、市内の公園でも最も古くから市民の憩いの場として親しまれています。面積四十二・五haの中に、百年記念館、動物園、野草園、児童会館などが設置されています。また、

これに隣接して八haの面積をもつグリーンパークと呼ばれる芝生広場があり、この一帯は帯広の名所となっています。

●帯広百年記念館  
帯広市の開基百年を記念して、昭和五十七年にオープンしました。この記念館は帯広十勝の自然や歴史などを展示する博物館と、市民が知性や感性を養う創造活動センターのふたつの機能をもつ複合施設です。このうち博物館施設は「十勝のおいたちと先住の人々」、「開拓の夜明けと発展」、「十勝農業王国の確立」、「伸びゆく帯広・十勝」のテーマからなる常設展示と、収蔵展

動物園、野草園、児童会館などが設置されています。また、



示で構成されています。

●帯広市児童会館

小中学校生徒や一般の青少年に、集団生活や文化活動を通じて科学に対する基礎的知識を習得することを目的に昭和三十三年に開館しました。

●帯広市野草園

事業は市内の小中学生を対象とした宿泊学習、科学・文化・発明工夫などのクラブ、プラネタリウムの投影などを行なっています。

●おびろ動物園

昭和三十八年、道東唯一の動物園として開園しました。現在は八十五種五百八十九点の動物が飼育されています。また園内には「子供動物園」、



十勝平野を一望できる観覧車などの遊具施設、世界的冒険家植村直己氏の業績を讃える記念館「氷雪の家」も設置されています。

日本動物園水族館協会  
北海道ブロック飼育技術者春季研修会報告

道内の日本動物園水族館協会に加盟している十一園館の飼育者が、お互いの研究成果の発表と、技術交流を目的に年二回の研究会を開催しています。本年度の春季研究会は五月二十三、二十四日の二日間、小樽水族館公社を会場に開催されました。今回は十園館から三十名の飼育者が出席し、十四題の研究発表と共通テーマ「におい対策：釧路」について熱心な討議が行われました。

演題名は次のとおりです。

(一) アミメニシキヘビの人工孵化について (円山、三原)

(二) ニホンザルの繁殖成績と近親交配対策について (円山、青木)

(三) 一九八八年の一年間におけるフンポルトペンギンの繁殖について (小樽、梶)

(四) シマヘビの孵化と幼蛇の成長について (旭山、高橋)

(五) コンドルの繁殖について (帯広、木本)

(六) メキシコサンショウウオの飼育と繁殖について (サンビエザ、大滝)

(七) ミズクラゲの繁殖について (小樽、阿部)

(八) バンドウイルカの血液測定値について (小樽、川尻)

(九) カナダヤマアラシの病理組織所見と肝臓中の銅含有量について (釧路、多田)

(十) ラッコ(成獣メス)の交尾行動後の異状による急変とその後の処置、治療及び経過について (網走、小関)

(十一) ベステルの海水馴化の経過について (稚内、高橋)

(十二) サケのアルビノについて (広尾、本田)

(十三) クマ牧場での消臭実験について (登別、牛腸)

(十四) 特別パネル展 (旭山、阿部)

なお、次回共通テーマは「ワシントン条約対象動物の実態及び、飼育状況について」

と決まり、サンビエザ水族館が担当して行うことになりました。更に、その他の討議事項として「フンポルトペンギンの雌雄判別に関する調査依頼」が小樽水族館よりあり、その主旨説明がなされ各園館に協力要請されました。研究会終了後、懇親会、施設見学を行ない有意義で充実した研究会の全日程を終えることが出来ました。

(小樽水族館公社 魚類飼育課長 小田 誠)



学芸員 北澤 実

(帯広百年記念館)

号をご参照下さい。

なお、幕別町ふるさと館に

ついては、ニュース第二十五

号をご参照下さい。

(帯広百年記念館)

学芸員 北澤 実

(五) コンドルの繁殖について

実態及び、飼育状況について」

(小樽水族館公社 魚類飼育課長 小田 誠)

## 「生涯学習」移行への背景

生きることは学ぶこと

コンピューターに代表される技術革新や、ニューメディアを駆使した情報化社会の到来など、急激な変化は、産業構造の変化、高齢化の進行、国際化の進展など、仕事の面ばかりでなく、社会生活や家庭生活に至るまで影響を与えています。

変化の激しい現代社会で生きていくためには、わたしたちは絶えず新しい技術や知識を身につける必要に迫られています。

人生八十年時代といわれるように、人の一生は大幅に延びました。長くなった老後を張りのあるものにし、より充実した人生を送るためには、生涯にわたって自ら学習し、社会の変化にとり残されないよう自分自身を育てていくことが大切です。

### 生涯教育と生涯学習

生涯教育という言葉は、昭和四十年にユネスコの第三回

「らない」としてあります。

しかし、生涯教育という言葉とその理念を最初に明らかにしたのは、昭和四十二年に日本ユネスコ国内委員会が、ポール・ラングランのワーキングペーパーを「社会教育の新しい方向」という日本語訳で出版したのがはじまりです。

また、昭和四十六年の社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」において、生涯にわたる学習の継続を要求するだけではなく、家庭教育、学校教育、社会教育の三者を有機的に統合すべきであると述べています。

さらに、昭和五十六年の中央教育審議会答申「生涯教育について」において、「教育」と「学習」の概念を明確に分けています。

そこでは、「人々が自己の充実に必要とする生活の向上のため、自発的な意志に基づいて、生涯を通じて行うのが「生涯学習」であり、「生涯学習を援助するために、さまざまな教育機能を総合的に整備・充実しよう

とするのが「生涯教育」であるとしてあります。つまり、「生涯学習」は学ぶ側からの用語であり、「生涯教育」は教育制度を整備する側からの考え方のことです。

### 生涯学習体系移行への背景

昭和五十九年九月に臨時教育審議会が発足し、四次にわたる答申の中で生涯学習体系への移行を提言した背景として、次のようなことが考えられます。

第一は、学校教育が量的に拡大普及し、それに対する過度の依存や学歴社会の弊害等が生じてきたので、学校中心の考えから脱脚し、人々が生涯を通じて絶えず自己啓発を続けるとともに、その成果が正当に評価されるようになること。

第二は、所得水準の向上、自由時間の増大、高学歴化など、成熟する社会では、生涯の各時期における人々の学習意欲が高まり、学習需要が高

高年齢化の進展に伴い、絶えず変化し新しくなる知識・技術を習得するための学習需要が増大し、社会へ出てからも学習を行うことが要請されることなどです。

これからの社会では、情報化、ソフト化、サービス化が一層進展し、生涯学習事業がますます発展していきます。人々の文化に対する関心の高まりの中で、地域に密着した歴史・民俗・自然・産業にかかわる実物に接して学ぶことのできる博物館は、生涯学習をより幅広く、そして豊かにさせる場として、ますます重要になってきました。今後

の成熟する社会での生涯学習は、家庭教育、学校教育、社会教育の場だけではなく、市町村が行う教育関連の事業や企業内の教育訓練、デパート、新聞社、放送局などの教育・文化的事業などを含めて、学習活動全体を総合的に見る必要になってきています。

(北海道教育庁生涯学習部 社会教育課 主査 品川 博之)

## 北海道開拓の村における ボランティア活動の実践

開拓の村は、昭和58年4月16日にオープンして、本年度7年目を迎える。  
54haの広大な敷地に、毎年市街地群・農村群・漁村群・山村群にわけて、計画的に北海道の開拓の歴史を示す明治・大正期の建造物が移設復元（再現）され、当初15棟であった建造物も現在は35棟に増え、完成目標の40棟に近づいてきている。

入村者は、建造物・環境の整備とともに増加し、今年の1月8日には二百万人を突破

した。  
教育普及・事業の充実により、特色のある野外博物館として、その発展が期待されている。

開拓の村のボランティア  
昭和61年北海道開拓記念館友の会の会員により試験的に施設解説を実施し、翌61年より友の会にボランティア会員を設けて、本格的に実施することとなった。

その内容は、(1)建造物及び展示資料の案内・解説活動への協力 (2)入村者との対話を通じての普及活動への協力 (3)展示物の監視・指導への協力 (4)開拓の村の催事その他開拓の村が必要とするボランティア活動となっている。

62年3月公募したところ一八一名の応募があり、説明会・研修会を受けた一二五名で活動がスタートした。63年一二六名、本年は増員されて一三八名で活動が進められている。

会員には、友の会会員の特典が与えられ、活動日の交通費と昼食代が支給されている。  
ボランティア活動  
(1)活動期間・活動曜日  
活動期間は、野外博物館・来村者の多い時期等から、4月末から10月中頃までの、月曜日（休村日）を除く約一五〇日の間、毎日14名で活動を行っている。

ボランティア会員は、自分の活動する曜日を決めて活動するが、各曜日22名（日曜日28名）となり、一日14名々ので約三週間に二回の活動日となっている（日曜日は隔週）。

(2)活動ブロック  
54haの広さ、集落の構成上から、6ブロック——総合案内（2名）・市街地群2ブロック（6名）・農村群2ブロック（4名）・漁村群（2名）——にわかれ地域を担当し、交代制で午前10時から午後4時まで、紺のはんてんのユニホームを着て活動している。

本年度からは、演示活動として市街地群では明治・大正期の駄菓子子の販売・巡査、農村群では農家での作業・養蚕の演示を行っている。

ボランティア活動の展望  
開拓の村のボランティア会員は、定年後の余暇の時間、家事の軽減による自由時間などを有効に活用して参加している人が中核をなしている。従って平均年齢も61歳となっているが、各自がそれぞれ社会奉仕・自己の可能性を伸ばす等の目的意識を持ち、自発的に学習・活動を操り広げ、目的を達成し自分の成果としている姿が窺がられる。

また、その積極的な意欲や活動は、村の活性化を押し進める一つとなっている。

しかし、今後のボランティア活動の発展充実のためには、次のような課題も考えられる。

第一に、ボランティアの活動に対する意欲を的確に把握し、研修会・学習会・反省会などのプログラムを整えること。

第二に、活動領域の設定を明確にし、活動しやすい諸条件を整備すること。

第三に、活動に対する必要経費を計画的に準備する必要があること。

これらの課題を踏えて、ボランティア活動は、施設に新たな機能を加え、その教育普及活動の充実につながるものであることを充分理解し、ボランティアが施設の性格を理解し活動を行うことにより、施設・利用者・ボランティアが一体となり、想像できないほどの成果と発展が期待される。

（財団法人

北海道開拓の村参事

大石雅二



## 館 園 紹 介

### 浦幌町郷土博物館

昭和四十四年六月一日、北海道百年と浦幌町開基70年を記念して開館した。それまで本町の郷土資料等は道史跡・

浦幌新吉野台細石器遺跡の表採資料等わずかな考古資料が町公民館に所蔵されていた

のであったが、この館の開館業務に伴い多くの開拓資料が寄贈され、現博物館の基礎資料となった。開館当時、本館

は全体的に開拓資料が中心であったが、昭和45年以降遭跡の緊急発掘が続き、平和遭跡・吉野遭跡・共栄B遭跡・十勝太古川遭跡・十勝太若月遭跡などの資料を受け入れ、考古資料が本館の資料群を特徴づけるようになった。

現在、館の展示は一Fに開拓関係資料、二Fに地質・考古資料を中心に配置しているが、メインは考古資料である。特に、北海道の縄文早期に特徴的な石刃鏃文化を代表する共栄B遭跡の一括資料、擦文時代の鍛冶跡の検出された十

勝太古川遭跡並びに縄文文化の墳墓群、擦文期の集落跡の十勝太若月遭跡の一括資料等については、他に類を見ない好資料であり、考古関係の文献等にも度々掲載されているものである。

館は、うらほろ森林公園入口の国道38号線沿いの孤高い丘の上に建っている。館周辺には町農村環境改善センター・野球場・水泳プール・スキ

ー場などの諸施設が設置され春から秋の行楽シーズンには観光客で賑わう。

しかし、開館以来二十年の歳月が流れ、館施設も老朽化し、又狭隘となつて、館活動にも少なからず影響が出てきていることから、新館の建設が熱望されているが、未だ具体的プランは策定されていない。

館の活動として、テーマ展のほか、見学会や史跡探訪が不定期に行われている。特に、他市町村の博物館園施設を見学して研修する「博物館見学会」は最も人気の高い事業で毎年度多数の参加者

がある。また、「史跡見学会」は、町内外の先史遺跡や幕末から明治期にかけての諸遺構・諸建造物等を系統的に見学するもので、一般町民には普段なじみのない遺構を見学してもらえよう配慮している。

その結果、本町の歴史の中でも特にトカチ場所や十勝川河口開発にかかる諸業績が発掘され、町歴史の叙述にも新しい展開が見られるようになった。

また、館では昭和47年から『浦幌町郷土博物館報告』を刊行し現在までに、33号が発刊されている。この報告では、北海道を中心とする北方地域

の自然や歴史・文化等に関する小論文・報告・資料紹介等を掲載している。この報告による新資料の発掘も多い。

JR浦幌駅下車徒歩20分  
(浦幌町郷土博物館)  
学芸員 後藤秀彦

## 館 園 紹 介

### 本別町歴史民俗資料館

本別町は、昭和二十年七月十五日、米軍艦載機四十七機の爆撃を被り、街の大半が焦土と化し、死者四十人の犠牲者が出るなど多大なる被害を受けました。

そのため入植時代からの往時を偲ぶ貴重な歴史的資料は四散焼失した。

このようなことから、開拓時代からの歴史的に貴重な数々の資料を後世にと、ふるさと本別の生いたちから、今日に至るまでの資料を収集し、調査研究・学習の場として、開基80年を記念し、昭和五十七年四月オープンしました。

一階企画展示室では、明治三十四年頃より入植者の手により開墾と併せて、森林資源の

開発が急速に進められたこと、明治三十七年にマツチ軸工場が操業、以来今日まで十数社の木工場が、枕木あるいは建築用材の生産と、本町は正に林業の町として発展してきたこと、さらに雪原をバックに原木の搬出に馬が主体となり、活躍している様子をジオラマで力よく紹介しております。

また、マルチカラーコルトンでは、18の画面に写し出された本別の四季折々の移り変わり、特につつじ祭り・駒おどりの一コマは、入館者の目を

楽しませてくれます。

二階常設展示室中央には、開拓当時の葺葺木造住宅(九坪)を再現し、日常使われていた生活用具が数多く揃えられ、当時の生活様子を偲ぶことができます。

本別には、チャシコツ(誓の跡)が日々所発見されております。この様にチャシが多い理由として、冬になると多くの鹿が集まる土地で、アイヌの人々にとっては楽園の地だったようです。

そのため多くのアイヌが暮





し、外敵からの侵入を防ぐチヤシを沢山作つたと言われております。

先住民族が使用した石器や土器・石オノなど数多く出土され展示しております。

その他、生活のあゆみ・文化の発達・商工業の発達・生活のうつり変りなど、往時の生活の様子を偲ぶことが出来ます。

最後に、当館の運営にあたり、日常生活の中に親しみをもち、町民の生涯学習の場としての工夫をこらし、資料館の使命を果して参りたい。



### 《本別町

#### 歴史民俗資料館案内

所在地・中川郡本別町北二丁目四番地一

電話番号・〇一五六二二二

二一四一・(内線五〇九)

開館時間・月～金10時～17時

土 10時～15時

休館日・日曜日・祝祭日

年末年始

入館料・無料

交通案内・ちほく高原鉄道

本別駅下車・徒歩五分

(本別町歴史民俗資料館

館長 高橋敏夫)

### 館園紹介

#### 忠類ナウマン象記念館

昭和四十四年七月、忠類村晩成地区の農道工事の現場で偶然発見された二個の臼歯の化石が、ナウマン象の全体像を明らかにする発掘の発端となり、忠類村は一躍「ナウマン象の里」として、全国的に有名になりました。

忠類ナウマン象の発掘は計三回、三年間に渡り、全体骨格の約八十％にあたる化石と関連遺物が発掘され、この後、

京都大学亀井節夫教授の指導により、十一万年の悠久の眠りより、忠類ナウマン象として現代に甦えりました。

村では、昭和五十四年にナウマン象の全体骨格のレプリカを購入し、関連資料とともにコミユニティセンターに展示していましたが、この貴重な発見を後世に伝える施設として、ナウマン象記念館の建設が高まり、昭和六十二年建設に着手、翌六十二年八月に完成し、オープンいたしました。

当館は、鉄筋コンクリート平屋建九百八十七㎡で、建物全体が象をイメージしたユニークなデザインとなっており、建物中央の円型ドームが胴体四隅の展示室等が足、玄関が頭、駐車場より記念館までの傾斜のついた「時の道」と呼ばれる歩道が、牙と鼻を表しています。この「時の道」の

両側には、過去の動植物をエッチングした銅板のついた円柱があり、来館者を現代から十一万年前のナウマン象のいた時代へと誘います。

常設展示の構成としては、

主展示室・収蔵展示室・収蔵室の三つの空間で構成されており、主展示室では「プロログ」「発見」「調査」「発掘」

「研究」「復元」という六つのテーマでシナリオが組まれていて、多くの映像機器を駆使して、当時の発掘の様子や資料について紹介しています。また、収蔵展示室では忠類ナウマン象のみならず、象の進化の過程や、他の象に関する資料を原標本・レプリカ等により紹介しており、収蔵室では主展示室以外の忠類ナウマン象の原標本・レプリカ等を展示しています。その他にも、

普段使用されていませんが、特別展示室があり、特別展に利用できるようにしています。尚、当館は外壁に象の肌をイメージする玉石を使っており、玉石にサインをして埋め込むなど、色々なアイデアがこらされた施設として、この度北海道建築学会賞知事賞を受賞いたしました。是非一度ご入館下さい。



#### 《忠類ナウマン象記念館案内》

所在地・広尾郡忠類村字忠類

三百八十三番地

電話番号・〇一五五八八―

二八二六

開館時間・九時～十七時

休館日・月曜日(月曜日が祝

日の時は翌日)と国民の祝

日の翌日及び十二月三十一

日から一月五日

入館料・一般三百円、小中学

生二百円、団体十名以上で

一般二百円、高校生百五十

円、小中学生百円

(忠類ナウマン象記念館

館長 吉田一弘)

館園の主な行事案内 (7月~9月)

●札幌市資料館

4・4~8・27 俳誌「葦芽」七〇〇号記念展、9・5~10・22 森田たま生誕85年展

●札幌市青少年科学館

7・22~8・18 夏休み特別展「未来へつなぐ放送の世界」、8・23~27 札幌市天文台夜間公開

●札幌市円山動物園

8・1~11 円山動物園夏まつり、8・31~9・6 第16回全道幼児児童動物画コンクール

●札幌彫刻美術館

9・13~10・15 第4回本郷新賞受賞記念事業、講演会他

●豊平川さけ科学館

6・13~8・1 子育てをする魚たち展(季節展)、7・30 豊平川さかなウォッチング

●札幌芸術の森

6・17~7・30 リブシッツ展、7・16~10・1 札幌芸術の森クラフト全国公募展

●サツポロビール博物館

7・2~8・31 開拓使・そして未来写真展

●当別伊達記念館

7・1~11・1 当別の移住と生活展(特別展)

●北海道開拓記念館

8・4~8・26 ロシアの憂愁「アントン・チェーホフ」展、9・1~11・5 集治監展

●北海道開拓の村

7・23 第5回昔の遊び選手権大会、8・1~8・31 第7回特別展「開拓期の農作物」

●道立近代美術館

7・15~8・20 ポストン美術展—19世紀フランス絵画の栄光、8・26~9・24 アン・デイ・ウォールホル展

●道立三岸好太郎美術館

8・1~8・20 たんけん美術館'89、9・15~11・5 三岸好太郎と北海道(特別展)

●北海道立文書館

6・27~6・30 第7回古文書解説講習会

●市立函館博物館

7・18~9・24 五稜郭からのメッセージ(特別展)

(講習会)、8・1~ふるさと再発見の旅(見学会)

●道立函館美術館

6・27~8・6 神戸市立博物館所蔵名品展 南蛮・ハイカラ・異国趣味、8・15~9・24 近代絵画の流れ展—ヨーロッパと日本の巨匠たち

●小樽市博物館

7・9 昆虫標本の作り方自然科学講座、8・26 北のくらし(親と子の歴史講座)

●小樽市青少年科学館

7・23~8・27 ガラスのふしぎ、7・1~8・1 臨海海藻標本作成実習

●夕張市石炭博物館

6・10~7・20 真谷地炭鉱と友子資料展、7・25~8・14 映画会—三菱美唄炭鉱「炭鉱」、9・10~10・20 ストーブ展(企画展)

●旭川市青少年科学館

5・1~9・1 科学館クラブ、6・1~8・1 プラネタリウム特別番組

●旭川兵村記念館

5・1~10・1 あさひかわ歴史を語る建物展(企画展)、同 旭川で使用の明治時代の

印刷物展

●上富良野町郷土館

8・6 夏休み親子探訪ツアー、9・1~9・14 第2回世界の切手展(特別展)

●剣淵町郷土資料館

7・1~ 天体観測、天文写真展

●士別市立博物館

7・1~8・27 目で見る士別90年のあゆみ(特別展)、7・27 昆虫標本づくり

●市立名寄図書館

6・24~25 ビアシリ自然教室、7・30 遺跡発掘体験同

●国際染織美術館

4・1~11・1 染織文化の東西交流、7・1~9・1 アイヌの衣裳 華麗な文様の伝統

●苫前町郷土資料館

7・1~8・1 北の小動物展、7・1~10・1 体験学習会

8・14~8・15 置戸町の植

物展(特別展・講演会)

●北網園北見文化センター

7・6~7・19 科学者レオナルド・ダ・ヴィンチ展、8・24~9・3 小中学生夏休み作品展

●苫小牧市科学センター

5・1~12・1 電子顕微鏡公開・実験、9・1 発明工夫展、研究発表会

●のぼりべつクマ牧場

4・29~10・31 ユーカラの里にて イオマンテの公開

●室蘭市青少年科学館

7・1 市民天体観望会、7・1~8・1 夏休み科学クラブ開講

●室蘭市民俗資料館

7・1~8・1 縄文土器を作る、7・25~9・1 教科書の変遷(特別展)

●厚岸町郷土館

8・27 体験学習ツアー「大黒島海鳥繁殖地」、9・10 第18回ふるさと教室「釧路湿原国立公園」

●本別町歴史民俗資料館

7・10~7・29 カメラ展(特別展)

館 園 動 向

◆留萌市海のふるさと館 六月十日オープン

館は、留萌市大町の通称「黄金岬」の高台に位置し、常設展示室、特別展示室、研究室などを設備した資料館であると同時に、施設の機能に観光的な要素も積極的に取り入れ、「学ぶ」、「遊ぶ」、「憩う」の機能を持たせたユニークな博物館です。

常設展示室は一階で、ここには「海と人びと」をメイン・テーマに、①地球と日本海の誕生、②海の狩人・海の商人、③留萌港ものがたり(映像展示)、④浜の繁栄、⑤マリンスポリス留萌、⑥海の生きものたちの六つのストーリーが展開されており、また、二階には北の天売、焼尻島から南の暑寒連峰など一八〇度のパノラマを楽しむ展望室も好評です。

建物は昭和63年7月着工、本年3月完成。鉄骨コンクリート造り、一部地下二階建、延面積二、〇二五㎡。

事 務 局 日 誌

(平成元年)

- 4・5 第28回大会シンポジウム関係者協力依頼開始
- 4・12 事務局会議(事務局体制の変更、新年度事業について)
- 4・20 道博協ニュース第27号の原稿依頼、平成元年度負担金納入についてお願い
- 4・27 「平成元年度普及及び展示事業について」調査用紙会員館宛送付
- 5・10 新事務局体制発足局長野村崇、次長山田健、庶務・会計担当井上肇、事業担当門崎允昭
- 5・11 帯広百年記念館館長小片英義氏、就任ご挨拶と次期帯広大会事務打合わせのため来訪
- 5・13 事務局会議(帯広大会準備について)
- 5・16 第28回大会諸依頼状(共催・後援・特別報告・講演・祝辞・実行委員・事務局員・施設見学・シンポジウム司会・助言・提言等)、第28回大会案内状、平成元

年度第1回役員会同、昭和63年度北海道博物館等現況)他各送付

- 5・23 昭和63年度北海道博物館協会負担金(会費)の納入について督促状送付
- 5・28-29 平成2年度第29回北海道博物館大会開催地に関する依頼のため江差町出張(事務局山田)
- 6・1 「北海道社会教育関係団体現況報告書」提出
- 6・3 日本博物館協会会長故徳川宗敬氏葬儀に渡辺左武郎会長参列
- 6・3 道教育長に大会補助金交付申請書提出

寄 贈 図 書

- ◆帯広百年記念館紀要 第7号(元年3月) ◆土別市立博物館報告 第7号(元年4月)
- ◆アイヌ民族博物館研究報告 第三号(元年4月) ◆一九八九 北における天文略表 旭川市天文台編(63年12月)
- ◆類似山道物語 類似町郷土史研究会(61年5月) ◆イベントによる市町村園の活性化 北海道イベント推進協議会

(元年3月) ◆季刊ミュージアム・データ No.9 秋丹青総合研究所・文化空間研究部

- ◆第36回全国博物館大会報告書 生涯学習と博物館 日本博物館協会(元年3月) ◆昭和63年度博物館指導者研究協議会報告書 同上 ◆昭和63年度会員名簿 同上

新 入 会 員

(団体会員) 標津町ホー川史跡自然公園(標津郡標津町字伊茶仁二七八五)、留萌市海のふるさと館(留萌市大町二丁目三の一)、夕張市美術館(夕張市旭町四番地三)、北方歴史資料館(函館市末広町二三番二)、上川町教育委員会(上川郡上川町)

会 員 住 所 変 更

官田久子

丸山和子

松尾 隆

館(札幌市中央区宮の森四条十二丁目) (個人会員) 政野 茂

◆協会役員異動

本年春の人事異動により、市立函館博物館館長は加納裕之氏から木村 繁氏、札幌市青少年科学館副館長は川本明弘氏から白井 哲氏、帯広百年記念館館長は松橋時一氏から小片英義氏、旭川市立旭川郷土博物館館長は那須和雄氏から金子民男氏、さらに北海道開拓記念館学芸部長は中村齋氏から矢野牧夫氏にそれぞれ変わりました。それに伴って協会理事も新しく就任されました方々をお願いする事になりました。前任の副会長、理事の皆様には、協会発展のためご尽力をいただき、有難うございました。

お 知 ら せ

事務局体制は5月10日より事務局長 野村 崇、事務局長 山田 健、庶務・会計担当 井上 肇、事業担当 門崎允昭となりました。

退 会 会 員

(団体会員) 札幌彫刻美術